

「令和3年度 島原半島高校生卒業記念植樹」

校長 前田 達彦

令和3年度、高校側の事務局を担当させていただきました。

普賢岳の噴火災害の記憶を風化させることなく、また、復興の歩みを続けるために、島原半島内の高校生が、卒業の年に毎年植樹を行ってまいりました。

しかし、このコロナ禍で卒業前の高校生がここに集うことは困難になり、卒業生各自が植樹を行うことを断念いたしました。ただ、「雲仙百年の森づくりの会」の宮本会長様をはじめ関係の皆様のご尽力によって、桜の苗木を各校に一旦運んでいただき、学校それぞれに記念のプレートを付け、また記念写真撮影を行い、再び回収していただくという特段のご配慮をいただき、自由参加で、有志の方による植樹となりました。

26年間続く高校生の植樹が途絶えることなく「繋がった」ということは、大変有意義なことであると思います。これから卒業生は進学や就職とそれぞれの道に進みますが、この桜の木が成長する姿と、自らの成長を重ねて合わせながら、ふるさとのことを想い、ふるさとの更なる復興を願い、この故郷で過ごした青春の日々を誇りとし、どこにいても、郷土発展の原動力になってほしいと期待いたします。

(令和3年度卒業生記念植樹 校長挨拶より抜粋)